



1、一休寺と月ヶ瀬

拙宅前の道路補修がありとのこと、工事前に出掛けることにした。地図で行き先確認をしたが固執せず、間違えたら計画変更することにして出発。

① 一休寺 国道24号を北上する。南部24号は迷路だが京都方面はよい。

「開橋」で左折し71号を北上して京田辺に来た。間違えずに一休寺に着く。

ここは京都紫野・大徳寺の大應国師ゆかりの寺で、戦乱で破壊されていたものを一休さん(1394~1481)が隠居所とし「酬恩庵」と名付けて住んだ所で墓所もある。

小さい寺だが、禅寺らしい雰囲気が高く、清水の皆さんに推薦できる。

丁度宇治茶の手揉みの実演や玉露茶接待も行われていたが、そのテントに隠れるように一休さんの「諸悪莫作 衆善奉行」の石碑があった。かっ達な文字が踊っている。

宝物殿で『是什麼』(禅問答で「これは何!」現代中国語でも「これは何?」)と書かれた軸物があったので、声高に喋りながら見ている中国人連に「是什麼(シイションマ?)」と聞いてみたが吃驚してるだけで返答がない。私も今はそれ以上に親切にする気持ちになれず別れる。友好が感情的に障害になっている。

② 月ヶ瀬 奈良物産展でおいしい玉露を飲ませて呉れた人が「月ヶ瀬で作っています。一度来て下さい」と言われたのを思い出して行ってみることにした。

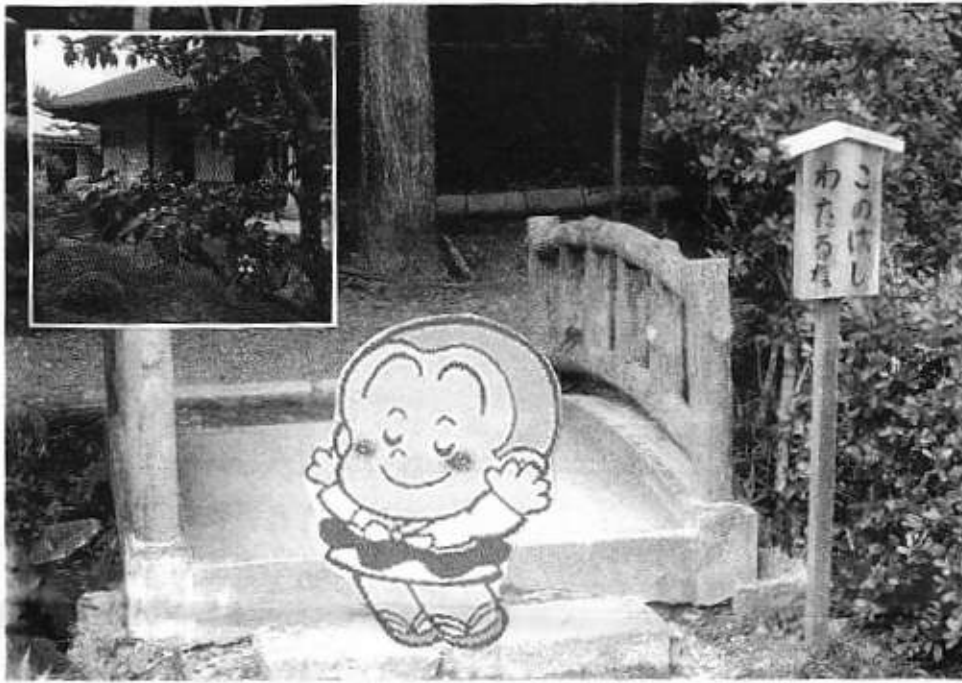
拙宅前の25号国道(酷道?)を東へ法隆寺過ぎを南下。不通の25号バイパスを横目で見て、西名阪高速(有料)の25号に乗る。暫く東行すると一般国道名阪25号となって無料になる。25号といってもいろいろあるのが奈良的なのだ。

登坂道をゆるゆる登り、五月橋から北上して月ヶ瀬に到着。まずは観光会館へ行く。

山道が開けて川となり、ここが名勝の梅林地帯であることが判る。梅を燻製して作る日本古来の染料(烏梅)の生産地でもあるとのこと。

会館二階はさらに展望が開けて、名張川の堰止め湖がなかなかの景観である。

一万本の梅林が咲きそろそろ春は素晴らしいだろうと思われる。驚いたのは資料室で、ここを訪れた墨客たちが残した書画の展示が並ぶ。富岡鉄斎しか名前を知らなかったが、立派なものが所狭しと並び、そのいずれにも読み方と意味、作者名と経歴が添えられていて、個性ある文字と感動の意味の両方の素晴らしさが伝わってくる。館長さんに礼を言うと「まだ沢山あり、まもなく入れ替えます」とのこと。近くには大滝を見ながらの露天風呂温泉や保養所もあり、いずれも清水の皆さんにお勧めできる。



虎丘庵庭園
一休さんのすまい。室町時代の代表的な禅院枯山水の庭園で、名勝に指定されています。



帆浦梅林付近

国名勝指定 月ヶ瀬梅溪



梅の郷 月ヶ瀬温泉

2、黙っていたら誤解される

暴動事件の余波が続いている。この件について世界各地で評論があったが、大体日本の方に軍配が上がっている。欧州では「日本が隠忍自重して暴力に暴力で対抗しなかったこと」を高く評価し、アジアでは「日本が冷静に対応し、アジア全体を混乱させなかったこと」を「格段の民度の違い」と喜んでいけると言う。しかし、このまま黙っていたら誤解されることになる。

彼らは日本人と同じではない。長い歴史の中で「同民族で殺しあう歴史」を何度も積み重ねてきた人たちである。「ウソ(詐欺)やホント(真実)」が大切なのではなく「如何に言い負けしないか」「勝つのが正義」を元に生き抜いて来た人達である。

私個人も「日本人と同じだろう」と錯覚して、返って友好を損ね、折角の友人を失うことになった痛い体験が何度かある。「今に判って呉れるだろう」「誠意をもって行えば認められるだろう」という態度は彼らの国民性には通じない。

我々の主張は、何度でも繰り返して言わねばならない。「今回の歴史認識は我々には我々の論理があり、覇権主義や領海侵犯、各種会合への不参加等で威嚇するのは歴史の逆行。愚行。人民の暴動は、論理を暴挙にすり替えた悪辣なものだから、謝罪して弁償せよ。」などを厳しく言わねばならない。黙っていたら友好は出来ない。

3、楽器屋さんがない！？

楽器屋さんで購入したいものがあったので「タウンページ」で調べて出掛けたが、見当たらない。次の町、次の街と探してもない。魚屋さんで聞いてみると「大きな店があったけど、倒産した」という。

生駒の笛仲間に聞くと「東生駒にある」とのこと、行ってみると音楽教室になっておりレッスンの案内が主で、関係のテキストがある程度。「もっといろいろ相談に乗って呉れる所はないか？」と聞くと「本社が橿原にある」と。とうとう20km程も南へ車を回すことになってしまった。成程、店内のガラスケースに高価な楽器が鎮座している。

対応してくれた女性は若いながらも「管轄主任」の肩書を持っていて「私はすぐ傍に家があり、中学・高校時代からこの店に厄介になっていたが、随分と内容が変わった」という。「今のここは楽器の案内所。カタログ注文がほとんど。専門的な方は大阪へ行って購入されます」とのこと。地元では商売にならぬらしい。

その昔、清水の楽器屋さんのおじさんに親のように世話になったことが懐かしい。

4、倶利伽羅紋紋のご入浴

いつもの銭湯である。ややゴマシオ頭の長身の男。さっと衣服を脱いで全身の入れ墨を見せつつ浴槽へ入ったので、並み居る小雀共はパッと口を閉じた。館の入り口には「入れ墨の人のご入浴は固くお断りします。無理に入られた場合は警官を呼びます」と張り紙がしてあるし、暫く前に大阪の橋下市長が「大阪市の職員は入れ墨禁止」を宣言した際には「アツタリマエヤ」と銭湯決議？したほどだからビックリした。

恐る恐るコワッパが聞くと、銭湯名主は心得顔に「あれは〇〇工場を定年退職シハッター人」と絵解きしたので、どうやら収まった。久しぶりに見る「クリカラ龍王」は迫力があつた。



5、奈良はなんでも日本一

奈良はなんでも日本一。歴史の長さは日本一。古墳の多さも日本一。などには文句はないが、「米、お茶、ミカン、柿、ブドウ、ワサビ、酒・味噌・醤油も日本一」といわれると「へーどこが日本一かいね？」と言いたくもなる。

新聞の一面に「全市町村が黒字」の文字が踊った。県内の全市町村の経費が、黒字で決算されたとのことで「そんな事ア当りメエだ」と思ったが、人件費等の不当支出が多く、黒字といっても赤字すれすれで全国ワースト〇を競っているとのこと。人件費といえば「既得権だから」と働かずに収入を得る人、税金不納や公金横領の話も多い。銭湯話題でも「いかにごまかすか」は格好の話題となる。これらも日本一らしい。

夕立ちや 御陵標示で雨宿り
 盆僧がアクセル強く踏み込んで
 存続を願いし分校 霧ごめる
 秘仏にも 年に一度の秋の風
 新ソバに添えられており吉野箸
 爽やかに ぽっくり願う吉田寺
 無住寺にキツネ住み着く秋となり
 鰐口を鳴らせば萩がこぼれ落ち
 平城山を揺れる電車で越えて行く
 眠る獅子 起こしてみたらウワバミだ
 西向くは当分イヤヤと鑑真さん
 わしゃターザン 孫は電動 楽勝す

雷の一喝 大和を走り抜け
 大仏に一灯献ず 終戦日
 天平の堂塔包み 霧茫々
 鹿の声 読経に交じる東大寺
 赤トンボ 群がる城や郡山
 鐘七つ 鳴って始まる放生会
 香久山を鶴翼並べ 鳥渡る
 白萩の揺れて 菩薩や秋篠寺
 一反の和紙 乾かして葛の花
 そのうちに 漢字返せと言いかねん
 及ばずも あちらの品は買わずおく
 誰呉れた? 孫のTシャツSパルス

6、感動的な音楽表現 鈴鹿：桜島小の子供たち 10/26

年に一度の『リコーダー研究大会』が今年は三重・鈴鹿の桜島小学校で行われた。

全体会（クラブ演奏）
 に登場した
 CB（コントラバス
 リコーダー）が
 立派に鳴り響いた。



3年生の授業で踊りながら吹く子。大人ではとてもリズムに乗れない。（黒板参照）